

半田ビオトープの特徴



半田ビオトープは、半田集落の南側、文殊山の裾野にあります。この地は、昔から農業が営まれていましたが、背後にある山の湧水の影響で土地は軟弱で、農作物の栽培は点在して行われるなどたいへん条件の悪い農地でした。しかし、生き物にとっては豊かな生息地で、ヤマアカガエル、ミスワラビなど多くの貴重な生物が確認されました。

平成13年度から、ほ場整備事業を実施していることから生態系保全の輪が広まり、この生き物を救おうと、お年寄りから孫までの三世代が立ち上がり、昔ながらの懐かしい水田風景の「水田ビオトープ」を考えました。

このビオトープは「生き物がにぎわう自然の園」から板柵水路で水田に水を引き、自生しているハンノキは残しました。田植えや稲刈りは手で行い、山との境の水路には杉板で蓋をし、排水路は間伐材を使うなど環境調和を心がけました。

半田ビオトープは、環境教育・憩いの場・生き物がにぎわう場として多くの人に利用され、親しまれることでしょう。



半田ビオトープに住む生き物

- 植物** 陸上 ハンノキ・イヌタデ・ハルタデ・アカザ・イノコズチ・ナスナ・エソアジサイ
ユキノシタ・ヘビイチゴ・ミヤマフユイチゴ・モミジイチゴ・シロツメクサ
カタバミ・アキグミ・ミソハギ・タラノキ・ミツバ・セリ・キクモ・オオバコ
ハハコグサ・オモダカ・コナギ・ツユクサ・スズメノテッポウ・ススキ・チカラシバ
アキノエノコログサ・カヤツリグサ・ミョウガ
ガーデンスター(植栽)・オータムヴィオレミニ(植栽)
- 水辺** ミクリ・ガマ・ミスワラビ

- 動物** 両生類 アズマヒキガエル・ニホンアカガエル
ヤマアカガエル・トノサマガエル
モリアオガエル・シュレーゲルアオガエル
- は虫類 ニホンイシガメ・マムシ
- 甲殻類 サワガニ
- 昆虫 ガムシ・ゲンゴロウ・ハグロトンボ
アオイトトンボ・サナエトンボ・オニヤンマ
ギンヤンマ・シオカラトンボ
ショウジョウトンボ・ウスバキトンボ
タイコウチ・クロヤマアリ・アゲハ
- 軟体動物 カワニナ
- 魚類 ドジョウ・メダカ

半田ビオトープの概要

- 赤石の泉 26㎡
- 生き物がにぎわう自然の園 142㎡
- 板柵水路 巾30cm 延長62m
- 水田 5枚(500㎡)
- 花だん 巾70cm 延長70m
- 丸太排水路 4箇所(間伐材利用)
- 休憩所 1箇所

平成18年9月作成



は
ん



だ

Das
Halbe
Reisfeld
Biotop





半田ビオトープを造る前の現況写真です。元々は沼田で、水はけも悪く、稲作に向かないため、荒地となっていました。

水田ビオトープ

田んぼが出来上がったら、田植え。昔の田園風景を思わせる小さな田んぼに、手で苗を植えました。生き物観察会も行われました。



みんな、いろんな生き物とみつけたよ。



ハザマ(狭間)の田

昔は刈り取った稲も乾かすために、ハンノキをさく木として利用していました。ビオトープ内のハンノキは自生していた木をそのまま残しました。

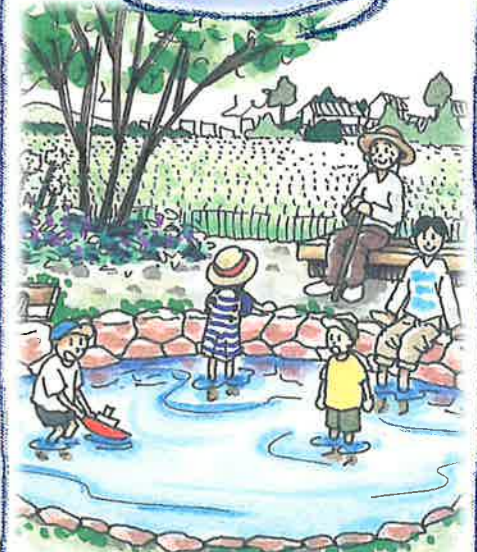


生き物がにぎわう自然の園



この池は、下の田んぼに水を配るため池であり、生き物のすみかでもあります。植物は移植を控え、自生を促します。

赤石の泉



この池には、地元で採った「赤石」が使われています。水遊びを通して豊かさを育みます。

そこで立ち上がったのが地元の方々です。地域の特色を生かし、人と生き物が集まる水田ビオトープづくりに取り組みました。



すじいパーにびっくり!!

小さな田んぼに田でしかんがい、ハンノキ。まるで日本の原風景を凝縮したような半田ビオトープは、生き物の生息地になるのはもちろん、学習や遊びを通して、世代を越えて地域の人々が交流できる場になるでしょう。

半田ビオトープは、日本の原風景を思わせる景観を形づくりながら、隣接する山と田んぼを移動する生き物の通り道にもなる、

「水田ビオトープ」です。

地域住民にとっては世代間の架け橋に、生き物にとっては命の架け橋になります。



いろんな生き物がすんでるね

命の架け橋 (生き物の移動経路)

半田ビオトープは、山と田んぼにつながり、水路には転落防止の蓋が架けてあるので、生き物は安心して行き来することができます。



たまご、こども 田んぼで成長

森で生活 おひな



ハザマ(狭間)の田

心なごむ風景だね

赤石の泉

生き物がにぎわう自然の園

おはあしはあて 気持ちはいいな